

# 学校自己評価実施報告書

十和田市立三本木小学校  
校長 坂本 稔



## 1 経営方針並びに重点

### ◎ 経営方針

本校は、創立146周年を迎えた長い歴史と伝統をもつ学校である。受け継がれてきた歴史と伝統を大切にするとともに、新しい時代を主体的に切り拓いていくための新たな視点を考慮し、学校の教育課題解決に努めながら、学校教育の確かな積み上げを図っていきたい。

そのため、経営方針を「大きな夢・希望・志をもち、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓いていく三本木小学校の児童」の育成を目指し、校訓『自立』『感謝』『進取』の精神のもと、『知(自ら学ぶ子)・徳(思いやる子)・体(たくましい子)・意(ねばり強い子)』を育む教育活動の推進に努める」とする。

そして、全職員の才知と労力を結集した教育活動を、地域・家庭と一体となってい、「学習したことが分かる楽しさ・できる喜び」「相手と気持ちを通じ合う喜び」「目標に向かい努力し達成できる喜び」を実感させることで、子供たちの笑顔あふれる三本木小学校でありたい。

### ◎ 経営の重点

#### 1 新しい時代を創造力豊かに切り拓いていくための確かな学力の育成

① 知識・技能を確実に習得させるため、教材研究をより深め、指導と評価の一体化による「わかる楽しさ・できる喜び」のある授業実践に努める。

② 思考力・判断力・表現力等の育成のため、「問題解決的な学習」「体験的な学習」「他者との協働的な学習」など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の充実に努める。

③ 人間性や学びに向かう力等の育成のため、「見通し」と「まとめ」「振り返り」を工夫した授業づくりと家庭学習の習慣化、杉の子ドリルタイムの充実、読書活動の推進による学習習慣の確立に努める。

④ 個に応じたきめ細やかな学習指導を行うため、ティームティーチング指導(TT)、少人数指導、放課後杉の子学習など、指導体制の工夫に努める。

#### 2 新しい時代をよりよく生きていくための豊かな心の育成

① 他者を思いやる心や礼儀・規範意識を育むため、問題解決的な学習や道徳行為に関する体験的な学習を取り入れた道徳の時間を要とし、全教育活動を通して道徳教育の推進に努める。

② 豊かな心を育む体験活動を充実させるため、家庭や地域社会との連携を図り、校訓「自立」「感謝」「進取」の精神を大切にした教育活動の実践に努める。

③ 基本的な生活習慣の定着と自己指導能力を育成するため、協同指導体制を確立し、生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営に努める。

④ いじめのない学校づくりのため、教職員と児童及び保護者との信頼関係を深め、SCやSSW等の外部専門家を学校いじめ対策組織に参画してもらい、いじめを積極的に認知するとともに組織的な対応の徹底に努める。

#### 3 新しい時代をたくましく生きていくための健やかな体の育成

① 自他の生命を尊重する意識を高めるため、交通安全・災害安全(防災)などの計画的指導を行い、安全指導の充実に努める。

- ② 体力の向上を図るため、スポーツテストの結果をふまえ、運動に親しむ資質や能力の育成、運動の習慣化を図る取組などを行い、体育指導の充実に努める。
- ③ 健やかな体づくりのため、食育指導、健康な生活を実践する資質や能力の育成（早寝・早起き・朝ご飯運動）などを行い、健康指導の充実に努める。
- 4 自立を目指す特別支援教育の充実
  - ① 共生社会の形成に向け、自立や社会参加を目指した指導を充実させるため、個別の教育支援プランと個別の指導計画に基づいた計画的な指導やねらいを明確にした交流及び共同学習の充実に努める。
  - ② 通常学級における特別な支援を必要とする児童の指導のため、校内支援体制を整備し、全教職員の共通理解を図り、個別の指導計画の作成と活用に努める。
  - ③ 特別支援教育の充実に努めるため、保護者、在籍校、交流学級、関係機関及び関係団体との連携を密にし、一貫性のある指導に努める。
- 5 郷土に対する愛着と誇りを育む活動の推進
  - ① 保護者、地域及び関係機関と双方向の連携を図るため、「開かれた学校」による情報発信と受信に努める。
  - ② 郷土を愛する心を育むため、保護者、地域及び関係機関（各ボランティア団体、三小コミュニティ協議会など）と一体となり、地域の人と関わる活動（ふるさと力日本一事業、あいさつ運動、読書推進活動、交通安全運動など）の推進に努める。
  - ③ 夢・希望・志を育むキャリア教育を推進するため、幼稚園・保育所、中学校、高等学校、地域社会などと連携を図り、現在及び将来の生き方について考える啓発的体験活動の工夫に努める。

## 2 自己評価結果及び考察

### (1) 授業の充実

具体的な重点事項	取組の状況（成果や課題）
①「わかる楽しさ・できる喜び」のある授業実践  ②算数ＴＴ・少人数指導，アシスタントティーチャー（理科）等の活用による指導体制の工夫	○各種学力検査の結果分析をもとに、学年内で育てたい部分を明確にして教材研究に取り組み、「見通し」「まとめ」「振り返り」を意識した授業をすることにより、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることができた。 ○主体的・対話的で深い学びの学習活動を充実させるために、校内研究と関連させた対話を取り入れた授業実践を行うことができた。 ○算数におけるＴＴ指導及び少人数指導，アシスタントティーチャー（理科）及びゲストティーチャーによる授業支援・活動支援により、個に応じた学習指導や体験的な学習活動の充実に努めることができた。 ●学習内容の定着を図る一助としてＴＴが中心となり放課後学習を行い個別指導を行ったが、それだけでは定着が困難なため、家庭とも連携して今後も繰り返し指導を行っていく。  <b>【肯定的評価】</b> ①勉強がよく分かる。 教職員90.6%，保護者85.3%，児童92.3% ②ＴＴや少人数指導で、勉強が分かりやすい。 教職員100%，保護者87.3%，児童94.1%
<b>考察及び次年度に向けた改善・方策</b>	
1 新学習指導要領を意識した授業改善に取り組むことができた。また、各種学力・学習状況調査や通常のワークテストの結果は、全体として良好であった。次年度は、主体的・対話的で深い学びをより意識した授業づくりと、ICTの活用やＴＴ指導などの学習環境づくり及び指導体制の工夫をより一層行っていく。 2 学習習慣の確立及び学習内容の定着に向けて家庭学習の充実させるために、参観日（全体会、学年・学級懇談）や各種たより（学校・学年・学級）を通して保護者に対して啓発を図るとともに、家庭との連携を強化していく。	

(2) 心の教育の充実

具体的な重点事項	取組の状況（成果や課題）
<p>①「特別の教科 道徳」の充実</p> <p>②適時性のある教育相談の実施と週1回の全教職員での情報交換による児童理解の深化</p> <p>③教育相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの緊密な連携</p>	<p>○問題解決的な学習や道徳行為に関する体験的な学習を取り入れた道徳の時間を要として校内研修と連動させて、他者を思いやる心や礼儀・規範意識を育む道徳教育を推し進めることができた。</p> <p>○年2回の教育相談や毎週の情報交換により、全教職員が児童に対して共通認識の基に共通行動をとり、いじめや不登校の未然防止を図ることができた。</p> <p>○相談室登校や保健室登校及び登校渋りの児童への対応について、学級担任と養護教諭・教育相談員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが連携しながら粘り強い対応を行ったことにより、教室に復帰させたり、改善の方向に向かわせたりすることができた。</p> <p>●様々な特性をもった児童が不登校傾向の児童と一緒に相談室を利用していたことがあったので、一人一人の児童に合った居場所づくりをしていく必要がある。</p> <p>【肯定的評価】</p> <p>①友達や下級生に親切にしている。 教職員94.1%，保護者92.2%，児童93.6%</p> <p>②学校や社会のルールを守って生活している。 教職員91.2%，保護者86.7%，児童91.0%</p>
<p>考察及び次年度に向けた改善・方策</p>	
<p>1 他者を思いやる心や礼儀・規範意識等については、日常的な道徳教育の実践により、身に付いてきている。次年度も「特別の教科 道徳」をパイロット教科として校内研修を進めるとともに、教育活動全体を通して道徳教育をより一層推進していく。</p> <p>2 問題行動に対する指導や不登校対策については、次年度も、報告・連絡・相談を徹底し、一人一人に合った対応をしていく。また、いじめの未然防止や早期発見・対応については、外部専門家に対策組織に参画してもらい、いじめの積極的な認知と組織的な対応を図るとともに、児童が主体となる「いじめ防止活動」と迅速なケース会議の実施を進めていく。</p>	

(3) キャリア教育の推進

具体的な重点事項	取組の状況（成果や課題）
<p>①校訓を意識した「ふるさと力日本一」の教育活動を核とした規範意識やマナー、コミュニケーション能力の育成</p> <p>②将来への夢や希望をもてるような地域の人や職業人とかかわる場の設定</p>	<p>○「ふるさと力日本一」の教育活動として校外でPR活動をしたり、地域の方々とふれあい・体験活動を行ったりした際に、児童は感謝の気持ちをもちながら主体的に取り組み、さらには十和田市への愛着を高めることもできた。また、「ふるさと力博物館」によって市民や保護者に「ふるさと力日本一」の取組紹介をしたことにより、達成感を感じさせることもできた。</p> <p>○職業講話、進学中学校の説明会、三本木高校キャリア教育「三高スタディ」、三本木中・東中・十和田中・付属中の職場体験学習の受入れを通して、将来の夢・希望・志に対する関心や意欲の向上を図ることができた。</p> <p>●学校と家庭がより連携してキャリア教育を推進していくために、「ふるさと力日本一」の教育活動に関する取組や子供の将来の仕事や生き方について、家庭内で話題になるように工夫する必要がある。</p> <p>【肯定的評価】</p> <p>①自分の将来の仕事や生き方について考えている。 教職員78.1%，保護者71.2%，児童88.6%</p>

	②ふるさと十和田への愛着や誇りが高まった。 教職員100%，保護者81.7%，児童96.3%
考察及び次年度に向けた改善・方策	
<p>1 「ふるさと力日本一」の取組については、年々充実及び浸透してきている。次年度は、事業の最終年度となるので、これまでの実践の積み重ねを生かして地域の人と関わる活動をより一層推進するとともに、児童の活動を意図的に発信していくことにより、校訓である「自立」「感謝」「進取」の精神の浸透を図っていく。</p> <p>2 各種関係団体と連携・協力して体験的な学習を行ったことにより、将来への夢やあこがれをもたせることができた。次年度は、家庭との連携を視野に入れた学習活動を展開することで、児童のキャリア発達を促していく。</p>	

(4) 特別支援教育の充実

具体的な重点事項	取組の状況（成果や課題）
<p>①校内支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員での共通理解，共通実践</li> <li>・支援員との打合せ会</li> </ul> <p>②指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童についての個別の指導計画の作成</li> <li>・交流学級担任や保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育に係る諸会議や喫緊の話題に係る資料提供を通して、特別な支援を必要とする児童への対応について共通理解を図るとともに、共通行動をとることができた。</li> <li>○支援員との打合せ会を設け、適切な対応の仕方を共有し、確認しながら支援することができた。</li> <li>○通常学級における特別な支援が必要な児童についての個別の指導計画の作成と実践，振り返りを通して、合理的配慮の有効性を探りながら指導の改善を図ることができた。</li> <li>○交流学級担任，保護者と連携を密に行いながら児童への指導に当たった。特に保護者に対しては，連絡ノート，電話相談及び面談等により共通の対応を行うことで，学校でも家庭でも気持ちの安定を図ることができた。</li> <li>●特別な支援を必要とする児童の状態は多種多様であり，一人一人の児童に合った支援をするための環境づくりが必要である。</li> </ul>
考察及び次年度に向けた改善・方策	
<p>1 特別な支援を必要とする児童の対応については、定期的な会議や部会B等により可能な限りの支援はできている。次年度も、個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づいて計画的できめ細やかな指導を行っていくとともに、特別な配慮を必要とする児童の増加に伴い指導体制の充実をより図っていく。</p> <p>2 授業や体験活動等において、特別な支援を必要とする児童に対する支援を一層効果的なものにするため、交流学級担任と支援員との打合せが確実に行われるようにしていく。</p>	

3 公開の方法

<p>(1) 保護者に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から文書配布，学校だよりへの掲載，参観日での説明</li> </ul> <p>(2) 地域住民や学校に関心のある方々に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員への説明・報告，地域関係団体等における説明，ホームページへの掲載</li> </ul>
--